

二次交通モデル事業について

二次交通専門部会事務局

観光立国推進協議会二次交通専門部会では、モデル地域を指定し、その地域における基礎調査やヒアリング調査、検討会議等を通じて、地域交通という側面も考慮しながら、二次交通に関する課題を解決していく。具体的には以下の内容で進めていきたい。

1 選定地域

岩手県花巻市

2 選定理由

東北エリアは、インバウンドが増加する一方で、高齢化と人口減少が急速に進行し、公共交通体制の維持と整備のバランスが求められるエリアである。そこで、東北エリアの中で空港や駅といった交通拠点を持ち、かつ温泉やワイン工場などの観光資源を持つ岩手県花巻市をモデル事業実施地域に指定した。

3 花巻市の概要

(1) 地勢

岩手県中西部に位置し、人口約 95,000 人。県南広域振興圏に位置し、南に隣接する北上市とともに北上都市圏を構成する。市内には、岩手県唯一の空港「花巻空港（愛称：いわて花巻空港）」を有し、鉄道では東北本線花巻駅と東北新幹線新花巻駅の 2 駅、高速道路のインターチェンジでは、東北自動車道花巻南 I C と花巻 I C、東北横断自動車道花巻空港 I C と東和 I C の 4 つを持つなど、高速交通網が整備されている。2006 年 1 月 1 日、(旧)花巻市・稗貫郡石鳥谷町・稗貫郡大迫町・和賀郡東和町が合併し、(新)花巻市となった。

(2) 観光に取り組む体制

花巻市商工観光部観光課

一般社団法人花巻観光協会

1954 年発足、2014 年一般社団法人化。会長佐々木博氏（佐々長醸造代表取締役社長）。今年 6 月 14 日、地域 DMO 候補法人申請。

(3) 観光客の入込推移

	（単位：		
	観光客	延べ宿泊者	外国人観光客
2014(平成26)年	2,176,290	872,033	14,643
2015(平成27)年	2,165,633	864,315	19,771
2016(平成28)年	2,227,046	872,157	23,012
2017(平成29)年	2,140,602	830,973	45,956
2018(平成30)年	2,012,089	797,450	49,886

(4) 観光

宮沢賢治生誕の地、わんこそば発祥の地、南部杜氏発祥の地、である。

主な観光スポット（数値は 2017 年の入込数）

花巻温泉郷（花巻温泉、台温泉、金矢温泉）（※南温泉郷と合わせて 1,030,417 人）

花巻南温泉郷（松倉温泉、志戸平温泉、渡り温泉、大沢温泉、山の神温泉、鉛温泉新鉛温泉）

宮沢賢治関連施設

宮沢賢治記念館（116,915 人）、胡四王山・ポランの広場、宮沢賢治童話村・賢治の学校（96,410 人）、宮沢賢治イーハトーブ館（26,236）、雨ニモマケズ詩碑、羅須地人会などが市内に点在

高村光太郎関連施設

高村山荘、高村光太郎記念館。（同一敷地内）

花巻新渡戸記念館

エーデルワイン（44,136 人）

古くからブドウ栽培が盛んな旧大迫町にある第三セクターの会社（株主は花巻市・全農岩手県本部・花巻農協など）。国内外のコンクールで数多くの賞を受賞している。直売所「ワインシャトー大迫」で試飲可能、工場見学可能

早池峰神楽

1976 国の重要無形民俗文化財、2009 ユネスコ無形文化遺産。大償神楽と岳神楽の総称。500 年以上の伝統を持つ非常に歴史のある神楽。

南部杜氏伝承館、酒匠館（物産施設）（39,603 人）

旧石鳥谷町の「道の駅石鳥谷南部杜氏の里」に併設。※酒蔵は「川村酒造店」があるのみ（見学不可）。

(5) 交通

① いわて花巻空港

	（単位:人）		
	合計	定期便	チャーター便
2014(平成26)年	396,966	382,002	14,964
2015(平成27)年	399,427	391,195	8,232
2016(平成28)年	417,130	408,488	8,642
2017(平成29)年	436,146	413,133	23,013

ターミナルビルは当初滑走路西側にあったが、2009 年 4 月東側に移設。

国内線（/日） JAL:新千歳 3 便（8:40 着・14:25 着・16:45 着）

（9:00 発・14:55 発・17:20 発）

伊丹 4 便（8:30 着・11:50 着・15:40 着・18:10 着）

（9:15 発・12:25 発・16:10 発・18:45 発）

福岡 1 便（13:40 着・14:10 発）

FDA:小牧 4 便（8:20 着・11:15 着・15:45 着・18:20 着）

（8:50 発・11:45 発・16:15 発・18:50 着）

国際線（/週） IT:台北(桃園)水・土。（16:50 着・17:50 発）2018.8～。

MU:上海(浦東)水・土。（14:10 着・15:10 発）2019.1～。

リムジンバス(岩手県交通)

盛岡市内行き 9 本（土曜日のみ 10 本）、1,400 円。

花巻空港駅

旧二枚橋駅を 1988 年 3 月改称。現ターミナルビルと 3.8 扣離れている（旧ターミナルでも 2 扣離れていた）。岩手県交道路線バス石鳥谷線（当駅-空港-花巻駅-北上駅）があった（航空ダイヤと無関係）が、前述ターミナル移転時本路線ルートは変わらず、花巻駅-新ターミナル間（花巻空港非経由）路線バス新設。その後、2013 年 10 月、空港-花巻駅間路線バスが廃止され、リムジンバスが当駅を経由することになった（ただし空港を乗降目的としない乗降は不可）。

②新花巻駅（東北新幹線・釜石線）

新幹線は上下それぞれ 19 本ずつ停車（東京直通は 17 本）

1 日平均乗車人員 930 人（2017 年）

釜石線ホーム（無人）は新幹線駅舎と離れており、改札外で乗り換えをする。

路線バス 土沢-新花巻駅-賢治記念館-花巻市街 平日 9 本・土休日 4 本

大迫-新花巻駅-花巻市街-県立中部病院 平日 4 本・土休日 2 本

③路線バス（岩手県交通）

	路線数	合計	（単位：本）	
			定期外	定期
2014(平成26)年	18	711,175	591,264	119,911
2015(平成27)年	18	708,371	585,771	122,600
2016(平成28)年	18	674,329	564,018	110,311
2017(平成29)年	18	670,836	579,067	91,769

○市内循環バス「ふくろう号(右回り)」「星めぐり号(左回り)」

従来新花巻駅-賢治記念館口-新渡戸記念館-イトヨカト-花巻駅-厚生病院前-花巻駅-新花巻駅を結んでいた(6 本/日)を、2009 年 10 月から市街地だけの循環コースに変更し 10 本/日に増便、2018 年 10 月からは 20 本/日に増便。大人 100 円。

○路線バス

石鳥谷線（石鳥谷-花巻市街-北上駅） 平日 18 本 土休日 12 本

花巻温泉線（花巻市街-花巻温泉-台温泉） 平日 16 本 土休日 13 本

湯口線（花巻駅-花巻南温泉郷） 平日 13 本 土休日 9 本

土沢線（花巻市街-新花巻駅-土沢） 平日 9 本 土休日 4 本

大迫花巻線（大迫-新花巻駅-花巻市街-県立中部病院） 平日 4 本 土休日 2 本

この他に 4 路線

④タクシー

15 社 192 台。営業区域は「花巻交通圏（花巻市）」。

⑤その他特徴的な交通手段

○新花巻駅-花巻温泉郷・花巻南温泉郷間無料送迎バス

新花巻駅-花巻温泉郷間 1 日 3 往復

新花巻駅発 15:00 16:10 17:15 花巻温泉佳松園発 8:10 9:10 10:20

新花巻駅-花巻南温泉郷間 1 日計 7 往復

○乗合観光タクシー「どんぐり号」「やまねこ号」（花巻観光協会）

「どんぐり号」（午前コース）花巻駅発→花巻温泉郷→高村光太郎記念館→雨ニモマケズ詩碑→宮沢賢治記念館→新花巻駅 大人 1 名 3,000 円

「やまねこ号」（午後コース）新花巻駅→花巻新渡戸記念館→宮沢賢治記念館→ワ

インシャト一大迫→早池峰と賢治の展示館→酒匠館→新花巻駅→花巻駅→花巻温泉郷 大人1名3,000円

「どんぐりとやまねこ号」(午前コース+午後コース) 大人1名5,500円

レトロジャンボタクシー(9人乗り)を使用

○仙台空港・松島・平泉・花巻線(岩手県北バス)

2017.1.25 から仙台空港二次交通運行調査業務事業として、仙台空港-平泉間で運行開始(岩手県平泉町と宮城県東松島市・松島町が岩手県北バスへ運行委託)、2017.4 から岩手県北バス自主運行。2018.5.11 から花巻空港まで延伸、2018.7.21 から花巻温泉まで延伸、5日間有効のフリーきっぷ(大人片道5,000円)発売開始

4 花巻市現地打合せ・視察

(1) 概要

実施日時：令和元年6月11日(火)～12日(水) 17時から18時30分

参加者：(花巻)花巻市商工観光部観光課 高橋課長
 (一社)花巻観光協会 平塚専務理事
 (一社)花巻観光協会 似内事務局長
 (日観振)丸山審議役、上村客員研究員、増田

(2) 議論内容

(花巻側より)

- ・バスは生活路線が中心。市街地を走る循環バスがあるが、これは当初はもっと大回りで観光地周遊と市内交通を兼ねるものであったが、利用が振るわず現在の形になった経緯がある。観光面でのバスは、新花巻駅と花巻温泉、花巻南温泉郷をそれぞれ結ぶ無料送迎バスがある(運行費用は市と温泉組合との折半)。
- ・現在、新花巻駅・花巻空港・賢治記念館3箇所の循環バス試験運行を計画中(一周約30分、夏休み期間に計30日間)。これを今回のモデル事業の柱にと考えている。賢治記念館は、坂の下にしか路線バスの停留所がないため、それを解消したい。より良いコースを再検討できればと思っている。
- ・数年前から花巻市内の観光スポットを巡る観光乗り合いタクシー「どんぐり号(午前コース、花巻駅→花巻温泉→観光スポット→新花巻駅)」「やまねこ号(午後コース、新花巻駅→観光スポット→新花巻駅→花巻駅→花巻温泉)」の運行を開始した。いずれも当初は料金無料でスタートしたが、現在はそれぞれ一人3,000円。
- ・花巻空港の国際便について、チャーター便時代(台湾、2014～2018)は、到着後全員がバス数台に乗り込む状態で、定期化後(花巻-台湾、TR週二便、2018～)は、バスは2台程度で残りはレンタカーもしくは新花巻駅へ出て新幹線乗車。

(日観振より)

- ・新たに走らせる循環バスだが、原案での実施ではルートや周知不足が懸念され、効果が不透明なので、コースや周知体制を再度検討のうえ、運行時期を再考したほうが良いのではないか。
- ・インバウンドの意向・動向などの詳細データが無いため、まずはそれらの基礎調査をしっかりとやる必要がある。今年度は基礎調査とそれを踏まえた対策の検討、次年度に対策の実施というスケジュールが妥当か。

5 課題

- 地域交通としての路線バスはそれなりに存在するものの、観光目線での路線バス網が無いに等しい。
- 観光タクシー（「どんぐり号」「やまねこ号」）があるが、周知不足で利用実績が低迷している。

6 今後の進め方・事業計画

- まず観光客の動向調査を実施する（花巻空港、観光施設、宿泊施設でのヒアリングなど）。その後、調査を踏まえた検討会を実施し、バスの実証実験を行う。
- 実証実験の結果を踏まえて再度検討会を実施し、商品化を視野に入れたバス運行ルートの見直しを行う。
- 観光タクシーの情報発信のための、インバウンド向け多言語情報サイトの立ち上げなど